

ばら通信

2009.11.11発行

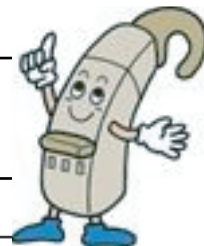
〒010-1638 秋田市新屋表町8-5

☎018-828-7750 Fax018-828-8185

社会福祉法人グリーンローズ 「ことば」の教室
オリブ園

NEWS

「難聴オリブ集う会」



裏面もあります

「難聴オリブ集う会」が開催されました

小松千里さんの発表を連続で載せました。ぜひ読んでみて下さい。また、畠山さん、小松さん、福田さんと連続発表のビデオがありますので見たい方は申し出て下さい。

小松千里さん 卒園児 現在25才

私は生まれたときからきこえませんでした。

この『グリーンローズ・オリブ園』には1歳から小学校に入るまでずっとお世話になりました。

年少～年中中期まではルーテル愛児幼稚園に通園し、佐藤真砂子先生、母のサポートを得ながら過ごしました。そして年長期は地元の保育園に入りました。それは母が、『小学校に入るとき、学校や友達もみな初めてで千里を知っている人が誰もいないと、心細いだろう・・・学校に入る前に周りの友達に千里という人を知ってもらった方が、何かあったときに助けてもらえるから』ということで地元の保育園に入り、週2回はオリブ園で指導を受けるという毎日でした。地元の保育園に入ったとき、いつもそばにいてくれた母がいなくて、物事が理解出来ず戸惑いました。特に音楽は分かりませんでした。だから、先生や友達の動きに合わせてマネするだけでした。

小学校は、地元の小学校に入学しました。母によると、私がすんなり入れたのは2つ先輩の人が門を開いてくれたおかげだそうです。その人は私より聞こえが良かったにも関わらず学校の方で聞こえに問題のある人を受け入れたことがなかったのに、なかなか入学の許可が下りなかったそうでしたが、入学するぎりぎりですぐに許可が下りたそうです。そのおかげで私は何事もなく入学出来たのです。

小2～小4の時の担任の先生は、私に対して皆と同じように接してくれ、嬉しかったです。この時の思い出として、テスト中にカセットの読み聞かせがあり、最初はその部分だけは空欄にして提出してましたが、このままじゃだめだと言われ、その内容が完全に理解出来るまで何回も聞かせられました。休み時間になっても延々と続き・・・周りの友達が遊んでる中、私だけテスト中・・・泣きながら解いた記憶があります。そして入学と同時に近くの花館小学校の『きこえの教室』『ことばの教室』に通い指導受けました。これは、学校が終わったあと母と一緒に went 行きました。部活はバスケット部に入り、一生懸命やったらレギュラーにしてもらいました。でもプレー中は監督やチームメイトの声が聞こえなくて、迷惑をかけたこともありましたが、皆に支えられ6年生までの3年間・・・皆とやる事が出来て良かったです。

中学校に入学するとき、母が『中学校に行けば勉強が難しくなるのでワンツーマンで教えてもらえるよう【聞こえの教室】を設置して欲しい』と教育委員会にお願いしましたが、許可が下りませんでした。それでこのままでは勉強についていけないだろうということで、家庭教師を頼み1年間4教科だけ教えてもらいました。2年生になるときもう一度教育委員会の方をお願いをしてみたそうですが、その時もだめでした。それで今度は塾に通うことにしました。でも部活と両立できなくて2学期の途中で辞めました。この時中学校でも部活でバスケットを頑張っていました。3年生になって間もなく教育委員会から『聞こえの教室』ではなく『特別学級』で設置の許可をいただきました。これも母が何回も足を運んでお願いしてくれたおかげだと感謝しました。

『特別学級』では、国語・数学・社会・英語の科目を教えてもらいました。その他は皆と同じでした。1対1だったので分からないところを遠慮なく聞けたし、私のペースに合わせて進んだので、成績は悪くなく志望高校に試験で無事合格することが出来ました。その時は本当に嬉しかったです。

高校では、耳に障害を持っていることを分かって欲しくて自己紹介の時にアピールしましたが、逆効果でますます疎外されるようになりました。でも他のクラスにいた同中の友達が心配してくれ、わざわざ私のクラスまで来て仲良くしてくれるようにと頼んでくれました。そのおかげで友達が出来ました。皆の輪にいても何を話してるのか

これまでと同様、子どもさんとご家族の立場にたった支援を続けていきたいと思いますので、
よろしくお願い致します。

E-mail olive@kodomo-sekai.com
ホームページ <http://www.kodomo-sekai.com>

何かありましたら誰にでも連絡・相談

さっぱり分からず・・・分かった振りをして適当に笑う・・・その繰り返しが疲れ、孤独感を感じ一人で行動するようになりました。あるきっかけで友達の一人と喧嘩しました。『何で一人で行動してるの??』『・・・だって一緒にいても何語してるか分からないから面白くない。ウチがいてもいないのと変わらないから一人でいるんだ。』『それはちーちゃんは何も言わないからでしょ!話が分からないならゆっくりと話すから。辛いこととか何でも言っていから・・・私ちーちゃんもっと仲良くなりたい!!』と言われ、気付いたら2人で泣いてました。私はその言葉がすごく嬉しかったです。自分が壁を作って距離を置いてたんだと気付かされました。友達とじっくりと話し合うことができ、それからは友達も私のことを理解してくれるようになりました。また他のクラスメートも私に話しかけてきてくれるようになり、だんだんと高校生活が楽しくなりました。勉強は中学校と違って進むペースが早くついていけない時もありましたが、私が通っていた高校は農業系でほとんど教科書を中心に進めるので、友達から教えてもらったり教科書を見て覚えたりと、赤点とることもなく卒業できたことは良かったと思っています。

学生時代は勉強が大事だって言いますが、私は友達が一番大事だと思います。小学校からの友達は、私に対して当たり前のように分かりやすく話しかけてくれ色々と助けられてきました。そして小学校からの親友がいます。高校卒業した後、彼女と何か新しいことをしてみたいと話し、一緒に手話サークルに通い始めました。手話を習ったおかげで、お互いの会話が前よりスムーズに進み話のすれ違いも減りました。彼女は手話を通して得たことがあると言いました。

『障害者はどんなに辛くても壁にぶち当たっても頑張って耐えて乗り越えてるから、自分の悩みが小さく思えるし逆に頑張ろうと思える。ちいのこと、障害者だと思ったことがないし、逆に世の中に差別するな!』と言いたいよ。私のこといつも笑わせてくれるし尊敬するところもあるし・・・私にとって一番大好きな自慢の友達だよ!』と言ってくれました。その時、私は心の底から本当の本当に障害者という形を受け入れた瞬間でした。その彼女とは喧嘩することもあるけど、くだらないことをやっては笑い合っ・・・私が駄目になりそうなきも一生懸命支えてくれました。本当に感謝してます。

高校を卒業する時今ほどではないが、私たちのときもあまりいい仕事はありませんでした。そこで両親は障害のある私に何か一つ専門資格を身につけさせたいと色々悩んだ末、秋田市にある『秋田経理情報専門学校』に行った方がいいと言われ行くことにしました。自分としては2年間頑張るつもりでした。でも入学から3ヶ月過ぎた頃、聞きなれない言葉があまりにも多く、言葉の意味が分からないので授業を受けるのがとても憂鬱でした。夏休み明け頃から母には学校に行ってるふりをしてハローワークに行き仕事を探していました。仕事が見つかったらちゃんと母に話して学校をやめるつもりでしたが、学校側から家に電話があり、そこで初めて私が学校に行っていないのがバレました。両親は『学校を辞めないで資格を取っておけば将来きっと役にたつからもう少し頑張れ』と言ったけど、私はもう行きたくありませんでした。そして9月に学校を辞め、それからハローワークで仕事を探しました。何回か行ってるうちにJAの方で面接したいという電話があり、面接した結果、採用してもらいその年の10月からJAで働くことになりました。仕事を頼まれることもありましたが、ほとんどの人が隣の人に通じて私に仕事を頼むという形でした。私が耳に障害があることは分かっている人も理解してくれる人は少なく、話しかけられることもなくコミュニケーションがとれないことが悲しかったです。だんだん仕事が減り、行くのも嫌になり、その職場も昨年5月で辞めました。辞めてからなかなか仕事が見つからなかったけど、今年2月から介護の仕事をさせてもらうことができました。おじいちゃんおばあちゃんと言っていることが分からないこともあります。周りのスタッフから助けてもらってます。やりがいのある仕事なので、おじいちゃんおばあちゃんの笑顔や会話を楽しみながら今頑張っています。

社会人になって色々な経験をしてきました。聴覚障害者との出会い、難聴者協会の入会、若杉大会の出場・・・人間関係も広がり仲間も増えました。高校卒業してから、今の旦那と知り合い、結婚し、子供も授かりました。様々な刺激を受け充実した毎日を送っています。これからは子供を持つ母として、どんな困難が待ち受けているのか不安な気持ちはあります。でも障害者であることは恥ずかしくない、決して不幸ではないことを子供に伝え、旦那と立ち向かっていきたいです。私がここまでこれたのは、周りの支え、そして私を健常者と同じように話せるようになった親の愛情・努力があったからこそなのです。

小学校の高学年になった時、友達とうまくいかず寂しい思いをしていたので、母に八つ当たりをしました。『私はどうして耳が聞こえないの?産まなきゃよかったのに!!』とひどいことを言いました。母は怒らずただ、『ごめんね・・・』と。今思えば、一番辛かったのは母だったのに。あの時の悲しい顔が今でも忘れられません。今まで逃げたい・・・死にたいと思うくらい何度も辛い思いもしてきました。でも健常者では分からない人の痛み、悲しみ、人への優しさをたくさん味わってきたその気持ちが私の心を強くしてくれました。私たちは補聴器という力を借りてるだけで、健常者とは何も変わらないのです。同情なんていらぬ。ただ理解して欲しい。それだけです。



ばら通信

2009.11.11発行

〒010-1638 秋田市新屋表町8-5

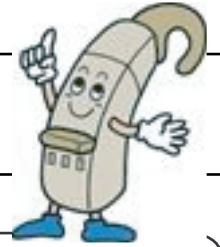
☎018-828-7750 Fax018-828-8185

社会福祉法人グリーンローズ

「ことば」の教室
オリブ園

NEWS

「難聴オリブ集う会」



裏面もあります

「難聴オリブ集う会」が開催されました

平成21年10月24日、「難聴オリブ集う会」が開催されました。多くの子どもたち(もちろん成人した方も来られました)、家族の方々、手話のボランティアの方々、職員と熱気あふれる会になりました。家族の方の発表がひとつ、本人の発表ふがたつで、それぞれ感慨深い発表でありました。地域の学校で育つ苦しみや喜び、それらがしっかりと、聞く人々の心を打ちました。これからも、こうしたコミュニティが、小さくとも各地で作られていくことを願って止みません。聴こえる人との交流、聴こえにくい人同士の交流、いずれも欠かすことが出来ません。共に、元気に、生きてゆくためにこそ、豊かな交流を続けていきたいものです。ここに今回のそれぞれの発表を本人の許可を頂いて載せることになりました。レジュメ的なものもあり、会場の雰囲気十分伝わらないかもしれませんが、どうぞ読んで頂いて、その向こうにある元気をくみ取ってほしいと思います。

オリブ園施設長 後藤 進

畠山さん 保護者

湯沢市の畠山です。

いろいろな子育ての方法があると思いますが、我家で息子を育ててきたことについて話をしたいと思います。息子のお名前は、亮と言います。現在、筑波大附属聴覚特別支援学校高等部1年生です。聴力は、両耳とも100dBくらい。

難聴の発見
～秋ろう乳幼児教室

満1才で発見。
発見されるまでは、幸せな毎日でした。
急に天国から地獄につき落とされた気持でした。
難聴とはどういうものなのかかわからず、頭の中が真っ白になんて、暗中模索の中、とにかく、この問題を解決するために、素直に人に聞きました。
先生達はもちろんのこと、先輩お母さん達、難聴の社会人。ここで、口話法を聞く。中澤先生に出会えたのも、先輩のお母さんのおかげで、難聴の子供の発達についてのホームトレーニングを受けた。それで、今日があると思っている。

育てるにあたって気をつけた事

- ・育てながら教える
- ・大人中心の生活から子供中心の生活
- ・人は皆ちがうという事
- ・「まだ出来ない。」という考え方から「これくらい出来るようになった。」
- ・医者、指導者、緒やの意志統一をしていく。

オリブ園へ

- ・自分達の考え方がやりやすい環境であった。
- ・いろいろ体験させる→失敗させることの大切さ
- ・一人の人間として堂々と人前に出させる
- ・友達とのかかわり、遊び
- ・一日一日を子供の前では楽しく過ごすこと、家庭はみんな仲よく
- ・あそびこそ子供にとって真の勉強の場である

小学校

親の希望で地元の小学校にインテグレート

中学校・高校

本人の希望で決めた

高校に入って、読み書きの大切さを感じている

これまでと同様、子どもさんとご家族の立場にたった支援を続けていきたいと思いますので、
よろしく願い致します。

何かありましたら誰にでも連絡・相談

E-mail olive@kodomo-sekai.com
ホームページ <http://www.kodomo-sekai.com>

福田裕奈さん 卒園児 現在22才

私の名前は福田裕奈です。22歳です。

3歳～5歳までオリブ園に通っていました。そして地元の幼稚園・小・中学校、大曲農業高校に通い、千葉県の聖徳大学で図書関係の勉強をし、卒業しました。現在は、地元で旅行関連の事務の仕事をやっています。

オリブ園に通っていた頃の記憶といえば、柏原先生と発音の練習をしていたことや本を読んでいた記憶がありますね。よく泣いて・よく寝ていたような……(笑)

幼稚園はルーテル幼稚園に通い、途中から地元の幼稚園に通いました。

小学校時代はバスケット部に入部し、中学校と6年間やっていました。小学校は幼稚園の時から8年間ずっと同じクラスだったのでみんなワイワイ楽しくたまにケンカしたりにぎやかに過ごしていたので良い思い出でいっぱいです。当時私はかなーりわんぱくで怪我が絶えない女の子でした。中学校も小学時代からの親友がいたので問題なく新しい交友関係を築くことが出来ました。特に2・3年は毎日がお祭りのようなにぎやかなクラスだったので愉快的思い出ばかりです。

今でも年に1回はクラス会をやっています(〇〇〇)。

高校時代は親友とも高校が違ったので馴染むに時間が少しかかりましたが、千里ちゃんが3年生にいたので過ごしやすかったです☆

高校時代はソフトテニス部に入部していました。

大学には小学校からなりたかった図書館司書の夢を追いかけるために入学しました。2年間寮生活し、あとの2年間は1人暮らしをしていました。寮生活の御陰で全国に友達が出来、当初こんなに仲良くなると思えなかった程伸びた友達も出来ました。地元に住たら出逢わなかっただろうなあ～と思える程自分に影響を与えてくれる貴重な友達が出来ました。

大学時代はいろんな活動をしました。サッカーサークルに入部したり、泊まり込みで子供キャンプのボランティアやアルバイト、図書館で3週間研修したりしました。大学時代は、自分から前へ前へと毎日走り続けていたので充実した日々を過ごしていました。

……少し長くなりましたが私の生い立ちはこんなカンジです。

でも、今まで生きてきた人生の中では決して良いことばかりではありませんでした。小さい頃の私は補聴器を付けて外に出かけることが少し嫌いでした。出かける先で補聴器を付けていると視線を感じてしまうので、見られたくない思いで長い髪で隠していた頃もありました。小学校の頃、ある時そんな自分がいやになって一気に髪をショートにして過ごしました。人は慣れてしまうもので、いつしか補聴器が気にならなくなり、それがきっかけで思いっきり行動できるようになりました。

友達人数多いと話が聞き取れない、部活で監督が何言っているのか分からない、授業では分からないことの方が多、心ないいはずらもされた……など挙げると沢山の問題がありました。友達が話していて聞き取れなかったらタイミング見て聞いたり、そばにいる友達に教えてもらったりしました。授業は当初、友達にノートを見せてもらったりしましたが、申し訳ない気持ちと自分一人の力でやりたいという思いが強かったので、黒板に書いていることを全部書き、要点を抜き取ってどうしても要点が分からない場合は先生に確認する方法をとっていました。ただ、数学と英語は苦手だったのですが、国語と歴史は大好きだったので主に得意分野を伸ばしていました。

22歳になった今、当時を振り返ると、楽しいこともあるけれど悩みの方も多いなと感じています。だけど苦しいとき、つらいとき、楽しい時どんな経験も無駄じゃなかったなあと思っています。むしろそんな経験を味わったからこそ人の優しさや幸せを感じる「私」がいるし、これが「私」です、と胸を張って紹介できます。

みんなに言いたいと思うことは、悲しいこと・つらいことも沢山あると思う。だけどいろんな思いを味わって経験を積んでいく……成功も失敗も、どんな経験も無駄じゃないってことを覚えて下さい。特につらい・苦しい気持ちは忘れずに持ち続けてください。それはきっと、自分の大きな経験になり、経験が自分を強くしてくれます。

スラムダンクの最終巻に「負けたことが、大きな財産になる」という言葉があります。本当にこの言葉通り、その思いを忘れないで欲しいなと思います。

私もまだまだ夢の途中なので、皆さんも夢を持ち続けて日々頑張ってください。

